

第18回 泉大津医療介護連携交流会(イカロスネット)

日時:令和元年12月7日(土) 場所:レイクアルスター4階 時間:15:30~17:30

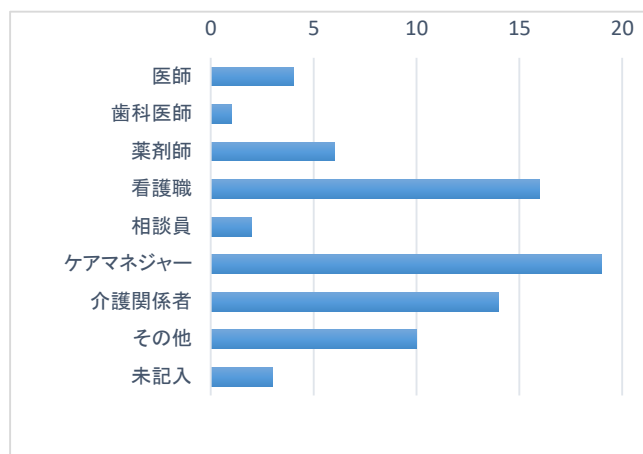
参加者: 89名

アンケート回収率: 84.3%

1. 職種

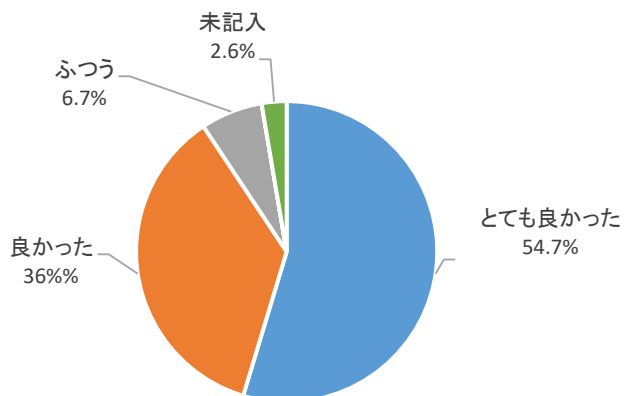
医師	4
歯科医師	1
薬剤師	6
看護職	16
相談員	2
ケアマネジャー	19
介護関係者	14
その他	10
未記入	3

その他
保健師2,施設長,OT2,ST,
PT,リハ職,社会福祉士,未記入



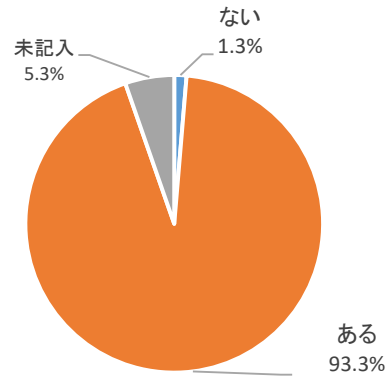
2. 今回の研修について

とても良かった	41
良かった	27
ふつう	5
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
未記入	2



3. それぞれの立場からの災害対策についての課題

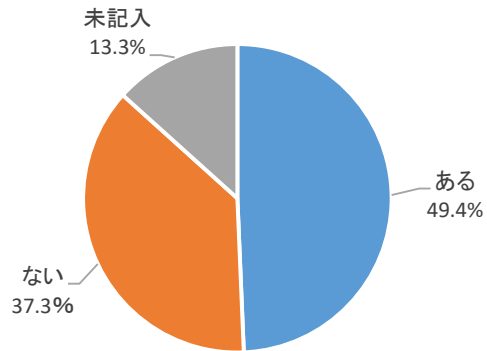
ない	1
ある	70
未記入	4



各自で災害に対する知識、行動を学習する。→6人 災害時における、自身の行える行動のシミュレーション。 自助・公助含み、連携が不十分。自助の重要さ。 自助の備え、意識の不十分さ。→2人 多くの方は災害に対しての意識は高いが、何をしてもらえるのかという訴えが多い。自助の教育、意識付けが必要。 停電、災害に備えて各自、何が必要かということを常に話しておかないといけない。	当事者の課題
地域ごとの災害時のマニュアル。 地域の災害体制。 公的サービスを利用していない高齢者の支援。 個人情報の公開も必要である。 事前準備においての個人情報の開示範囲。 水、電源確保にしても、近所単位での把握は出来たととしても、市町村単位での把握は難しい。 地域のつながりが低い。	地域の課題
職員の確保、ライフライン、情報収集の能力、つながり。→5人 停電対策、連絡網整備。→4人 連絡網の整備。→2人 冷蔵の保管、電源の確保。→2人 組織としての準備(想定等して)。 災害時の要支援者の確認。 サービスの確保、マニュアルの周知、理解不十分。 体制の整備。 電源対策、安全確保、人の確保。 スタッフの配置。 医院内の発電など、停電への備え。 ライフラインの確保、職員の安否確認、防災用品の備蓄、情報取得方法、通信手段の確保。 災害時に誰が保健所に集まっても対応できるようにする事。 医療機器使用者のリストアップ。 一人暮らしの方の安否確認。→5人 患者への自助の働きかけの必要性。 個人で情報を仕入れ、利用者等に情報共有、提供できる。 災害対策の話し合い。意識を高めていく。→4人 在宅、利用者と家族とのつながりのなさが、ヘルパーへの負担となったりしている。 自身で出来る備えについての情報を広められていない。→2人 自分で発電機購入不可の方の電源確保。 バッテリーの必要性。 安否確認の方法、避難方法。 情報収集、情報のまとめ役。 情報不足、地域の避難所など、各ケースへの対策が出来ていない。 水分、食事の準備、ハザードマップを使用して避難者の確認をしておく。 電気等、止まった時のライフラインが欲しい。 独居の利用者が多い。	医療 介護事業所 の課題
療養病院として何が出来るのだろうか。相談員として何が出来るのか。 スタッフも被災している中でどのような動きを取ればよいのか、適切な判断が出来るか。 何を準備すれば良いのかわからない。 備蓄食品の確保、飲食確保、どの程度の備蓄が必要なのか。 実際、何も出来ていない。	何が出来る だろうか？

4. 課題に対しての対応策や実際の取り組み

ある	37
ない	28
未記入	10



<p>蓄電池、ソーラーパネル。 食料や水のストック、自家発電機。 非常電源の確保。 保冷剤、クーラーボックスの用意、発電機。 ストックをしておくこと、家族と話し合いをしておくことについては、訪問時に伝えるようにしている。 吸引が必要な方はバッテリー付きのものを購入していただく。災害時に誰が連絡、安否確認するのかを担当者会議で決めてい 防災グッズ、蓄電機の準備。 蓄電機設置。 準備物を整備している。 毎年、備蓄食品の消費期限の確認。 自分の住んでいる場では台風がなかなかおこらないと半分思っている。懐中電灯の購入をおこなった。 発電機の導入を検討する。 備蓄品の備え。 電源、食料等、連絡網の準備。 災害協定を結んだ。 災害時基本情報シート、手引きを作成し、災害時の対応や連絡手段について、直ぐに確認できるようにしている。 災害時シミュレーションを人工呼吸器装着患者の自宅で、本人、家族、各サービス、保健所皆で実施し、 停電時の対応について共有している。 地域で関わる関係機関を集めて、災害について会議を行い、取り組みを検討している。 24時間連絡体制。 ケアマネジャーだけでなく、デイ、ヘルパー利用者は、それぞれが確認できるシステムを構築したいと考えている。 独居の方に対して、部署の全員が把握して、出勤できた人間が安否確認を行うよう、リストを作成している。 独居や介護度の高い人など、優先順位を決める。備えや意識の声掛け。 訪問看護、ケアマネジャーとの連携。 連絡手段の確認。 ライフラインの確保、患者様とその家族の連絡先を確保。 独居や身寄りのない利用者のみ安否確認を実施。 これから、自助の意識づけを利用者の方に伝えていければと思います。 家族間で集まる所を決めている。情報収集。 家族の対策は出来ている。 日頃から自助。家族間で災害時について話し合う。 日頃からの備え。 地域の情報収集に努めている。特にホームページを見る様、心掛けている。 対象者の情報提供、備えの教育。関係機関の啓発、連携。 防災訓練、勉強会。 利用者に個別に話す機会を持っている。 自助の教育を自らしていくべき。 出来るところから実行している。 想定できるところからポチポチと。(お金がかかることは、なかなか難しい)</p>	<p>物品の備え</p> <p>対応の手引きや連絡体制の構築</p> <p>日頃からの情報収集・意識づけ</p>
--	--

5. 次回に取り上げてほしいテーマや開催場所・方法等

災害対策は繰り返し課題に取り上げて話し合う事もよいかと思えます。→2人
災害時の机上訓練と避難訓練。
在宅での看取り。
連携、コミュニケーションスキル。
生活困窮者への対応。

6. フリーコメント

災害に関して、深く話し合ったことが職場ではなかったので、各家庭、職場で話し合うことの必要性を感じました。
自助の大切さと、日頃、いかに近所の人との関係があるかを改めて話せて良かったと思えます。
MAPより、SNSとかですぐに拡散できると思う。直ぐに、自宅の災害対策や家族での話し合いを持つ。
市役所、保健所、訪問看護、施設の方の災害時の対応や課題を聞いて良かったです。
災害に対して意識が上がりました。まずは自分でしっかりと行動が出来るよう、災害について勉強したいと思います。
災害対策については、今後も地域(自治体)で話し合っていきたいと思えます。
今まで災害について考えようとは思っていたものの、具体的な策をしていなかったもので、考え行動するとてもよい機会になりました。
早速対策します。
患者や両者さんの自助を勧めるには、関わっている関係機関から意識を上げることが必要だと思えます。
災害に対する意識を再度確認することが出来ました。
多職の方での意見が聞いて良かったです。→2人
多職種の様々なご意見を聞くことができ、貴重な機会となりました。
大変、充実した内容でした。
大変勉強になりました。今後も継続してください。
初めての参加でしたが、いろいろ勉強になりました。
初めての参加でしたが、来年も参加します。
今回の様な研修は、継続して実施することが大事だと思えます。
目が悪いので、名札の名前をもう少し大きくしてほしいです。